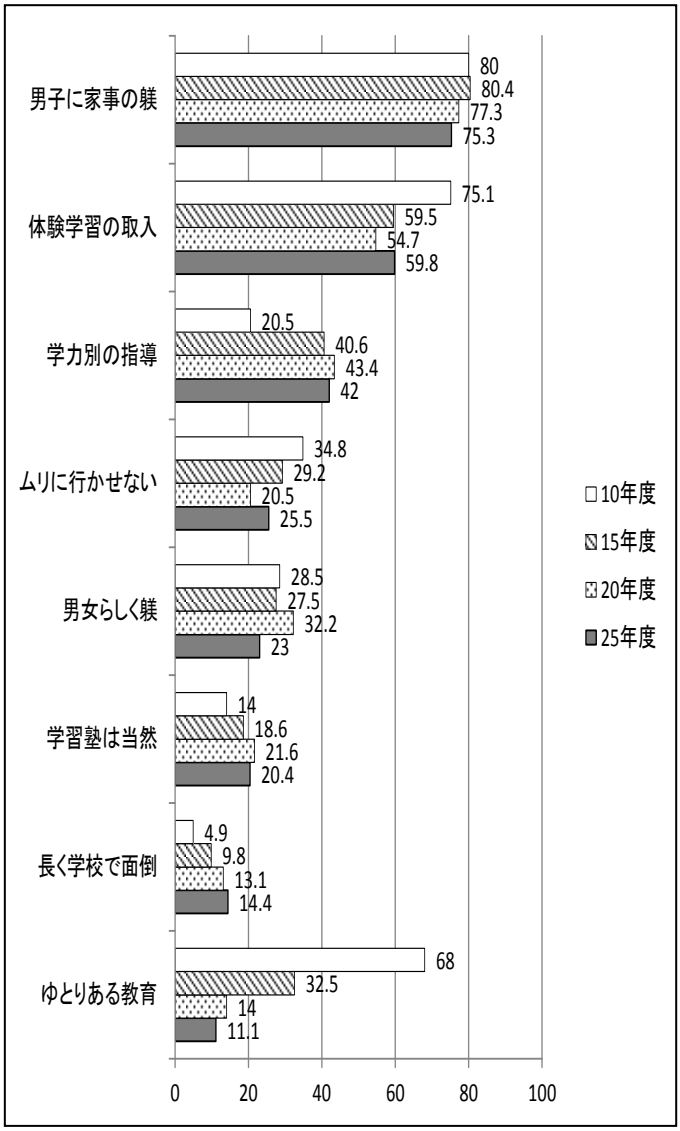
（４）教育に対する価値観と悩み
①教育問題に対する考え方

問８　あなたは、次のような意見や考え方について、どうお考えですか。
（とてもそう思う、そう思う、どちらともいえない、思わない、まったく思わないから選択）

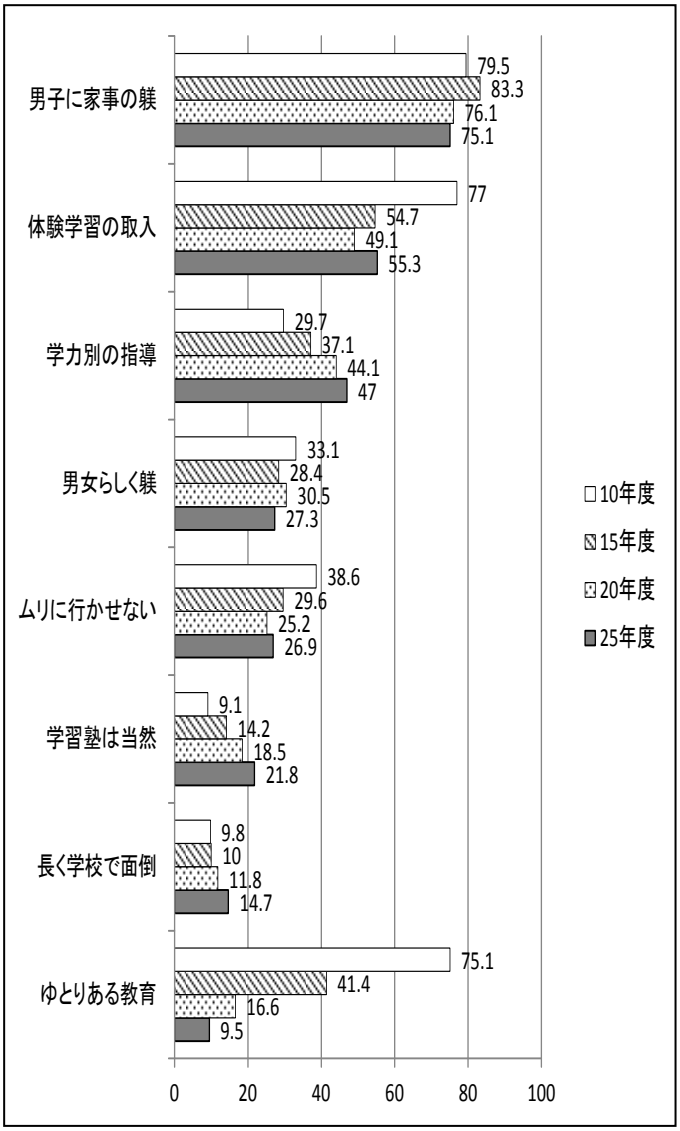
Ａ 小学校や中学校でも学力別の指導を行った方がよい
Ｂ 子どもはできるだけ長い時間学校で面倒をみた方がよい
Ｃ 学校では、もっとゆとりのある教育をすべきだ
Ｄ 学校では、もっと体験学習（自然体験や奉仕活動等）を取り入れた方がよい
Ｅ 学校に行きたがらない子どもに無理に行かせる必要はない
Ｆ 男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけた方がよい
Ｇ これからは男の子も家事ができるようにしつけるべきだ
Ｈ よい学校に入るためには学習塾へ行かせるのが当然だ

※グラフは、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせたものである。

問８　次のことをどう思うか（小学生の保護者）
〈とてもそう思う＋そう思う〉



問８　次のことをどう思うか（中学生の保護者）
〈とてもそう思う＋そう思う〉



＜平成２５年度の結果＞

小学生、中学生の保護者ともに、「これからは男の子も家事ができるようにしつけるべきだ」と考えている割合が最も高く、「学校では、もっと体験学習（自然体験や奉仕活動等）を取り入れた方がよい」「小学校や中学校でも学力別の指導を行った方がよい」が続いている。

また、「子どもはできるだけ長い時間学校で面倒をみた方がよい」と考えたり、「学校では、もっとゆとりのある教育をすべきだ」と考えたりする小学生、中学生の保護者の割合は、ともに低く、１割から２割程度しかいない。

＜平成１０年度から２５年度を通しての比較＞

小学生、中学生の保護者ともに、割合が最も高い「これからは男の子も家事ができるようにしつけるべきだ」は、平成１５年度の調査をピークに、若干の減少傾向にある。(*) また、「学校では、もっとゆとりのある教育をすべきだ」は、平成１０年度の調査から著しく減少し、保護者の考え方の変化が見て取れる。(*)

「学校では、もっと体験学習（自然体験や奉仕活動等）を取り入れたほうがよい」は、小学生、中学生の保護者ともに、年を経るごとに減少傾向にあったが(*)、平成２５年度の調査で再び増加した。学校での体験学習の必要性を感じる保護者が増えてきている結果だと考えられる。

小学生の保護者で、平成１０年度の調査から平成２５年度の調査にかけて増加傾向にあるのは、「小学校や中学校でも学力別の指導を行ったほうがよい」「よい学校に入るためには学習塾に行かせるのが当然だ」「子どもはできるだけ長い時間学校で面倒をみた方がよい」である。(*) この結果は、中学生の保護者でも同様の結果であるが、学力別の指導と通塾については、より増加傾向がはっきりしている。(*)

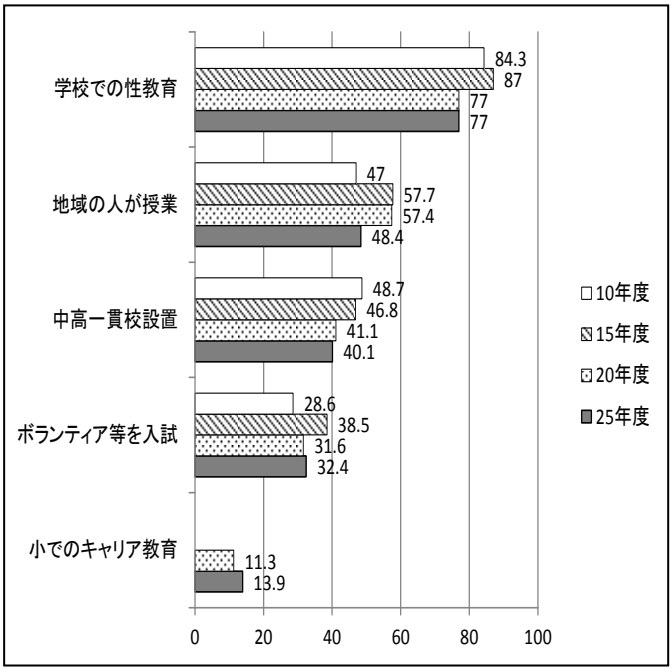
②公教育に関する話題

問１３　あなたは、公教育の中で次のようなことを進める必要性があると思いますか。
（とてもそう思う、そう思う、どちらともいえない、思わない、まったく思わないから選択）

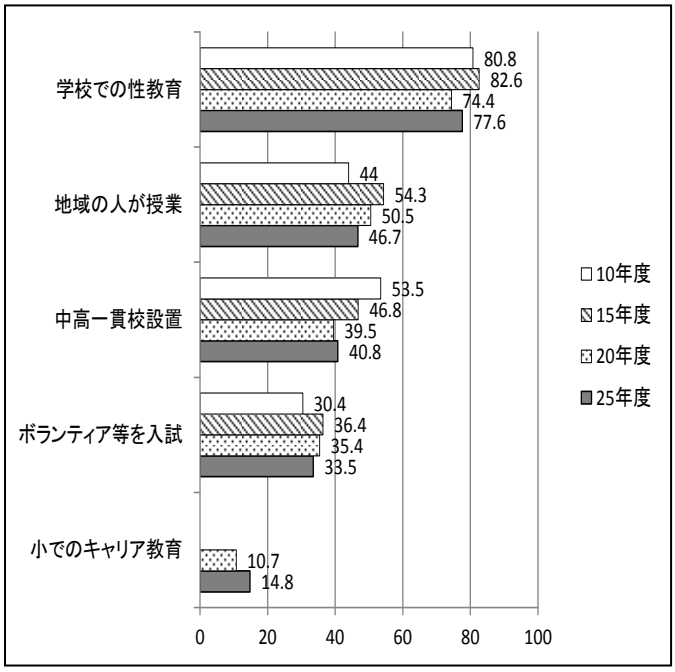
Ａ 学校における性教育
Ｂ 小学校からのキャリア教育
Ｃ 公立学校の中高一貫校設置
Ｄ ボランティア活動等の校外体験を入試の判定材料に入れること
Ｅ 地域の人々が学校の授業の手伝いをすること

※グラフは、「とても思う」「思う」を合わせたものである。
※「小学校からのキャリア教育」の項目は、１０年度・１５年度は「小学校における英語教育」

問 13　公教育で必要性があるか（小学生の保護者）
〈とても思う＋思う〉



問 13　公教育で必要性があるか（中学生の保護者）
〈とても思う＋思う〉



＜平成２５年度の結果＞

小学生、中学生の保護者ともに、「学校における性教育」の必要性を感じている割合が最も高く、「地域の人々が学校の授業の手伝いをすること」が続いている。

昨今、力を入れるようになってきた「小学校からのキャリア教育」は、１割強程度の割合にとどまっている。

＜平成１０年度から２５年度を通しての比較＞

小学生の保護者では、関心が高かった「学校における性教育」や「地域の人々が学校の授業の手伝いをすること」において、平成１５年度の調査をピークに減少している。(*) また、「公立学校の中高一貫校設置」においては、年を経る毎に減少傾向にある。(*) 逆に、「小学校からのキャリア教育」においては増加傾向である。(*)

中学生の保護者では、「学校における性教育」は常に高く、ほぼ横ばいである。(*) また、「地域の人々が学校の授業の手伝いをすること」は、小学生の保護者と同様に、平成１５年度の調査をピークに減少している。(*)「ボランティア活動等の校外体験を入試の判定材料に入れること」についても、割合の大きな変化はなく、ほぼ横ばいの結果である。(*) どの年度の調査であっても、４割にも満たない割合であるため、入試においてそれを判定材料にする必要性はないという意識は変わっていないと言える。小学生の保護者と同様、「小学校からのキャリア教育」においては増加傾向であり、(*) 関心の高まりがうかがえる。

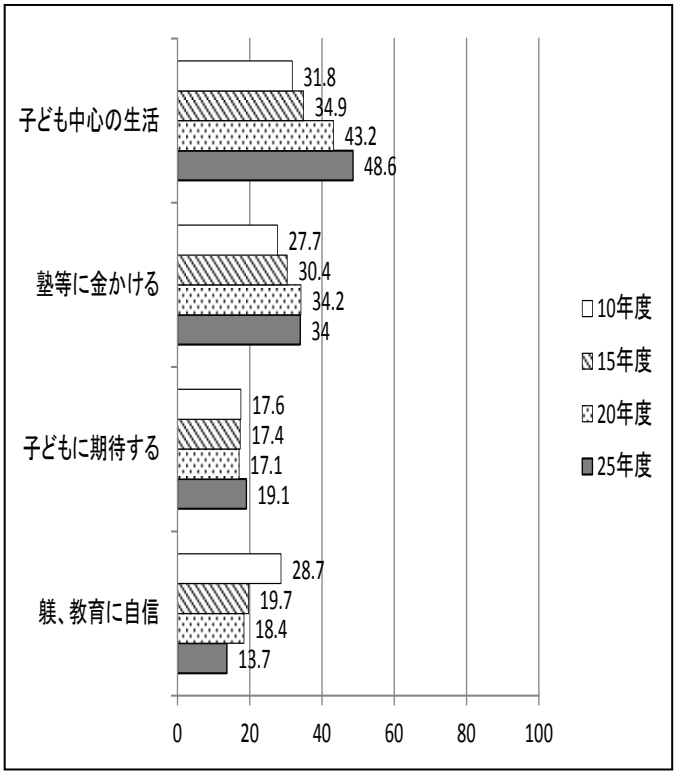
③子どもの教育に関する考え方と悩み

問１　あなたご自身のことについて、おたずねします。
（とてもそうだ、そうだ、どちらともいえない、そうではない、まったくそうではないから選択）

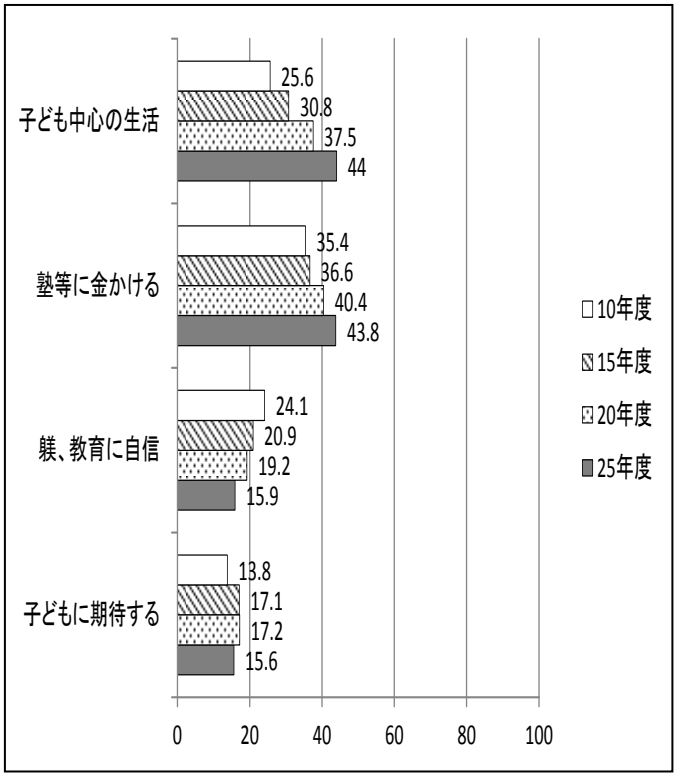
Ａ 子どものしつけや教育について自信がある
Ｂ 子どもの塾や習いごとに多少無理をしても、お金をかける
Ｃ 子ども中心の毎日を送っている
Ｄ 自分のできなかったことを子どもに成し遂げてもらいたい

※グラフは、「とてもそうだ」「そうだ」を合わせたものである。

問１　自分自身のこと（小学生の保護者）
〈とてもそうだ＋そうだ〉



問１　自分自身のこと（中学生の保護者）
〈とてもそうだ＋そうだ〉



＜平成２５年度の結果＞

小学生、中学生の保護者ともに、多い順は、「子ども中心の毎日を送っている」「子どもの塾や習いごとに多少無理をしてもお金をかける」であるが、塾等にお金をかけるのは、中学生の保護者の方が多く、(*) 進学への関心の高まりを感じさせる。

反対に、「子どものしつけや教育について自信がある」においては、小学生、中学生の保護者とも２割にも満たない結果であり、子育てに対する自信のなさがうかがえる。

＜平成１０年度から２５年度を通しての比較＞

小学生、中学生の保護者ともに、「子どもの塾や習いごとに多少無理をしてもお金をかける」「子ども中心の毎日を送っている」の割合は、調査ごとに増加傾向である。(*) しかし、「自分のできなかったことを子どもに成し遂げてもらいたい」の割合は低く、ほぼ横ばいの結果である。(*)

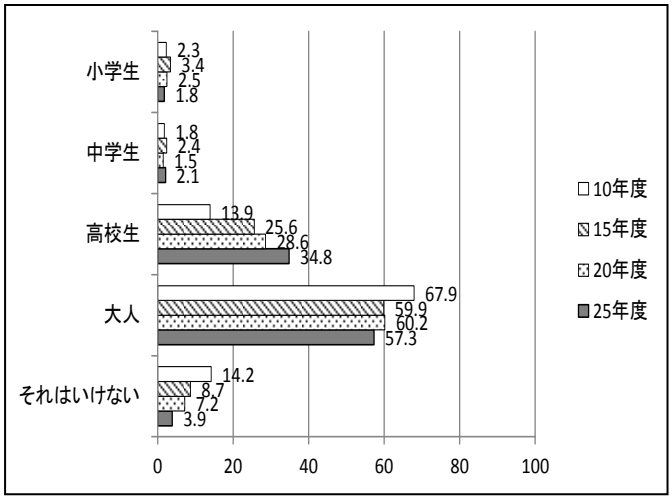
反対に、減少傾向にあるのが、「子どものしつけや教育について自信がある」である。(*) 調査ごとに自信があると言える保護者が減ってきており、このことが、学校に多くのことを求める傾向につながっているように思われる。

問９　あなたのお子さんが、次のことをしてもいいと思うのはいつ頃からですか。
（小学校低学年、小学校高学年、中学生、高校生、大人、そうすべきでないから選択）

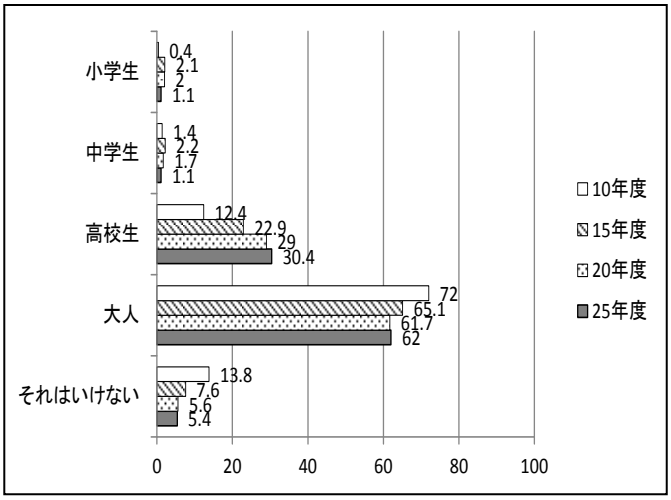
Ａ 髪を染める　　Ｂ ピアスをする　　Ｃ お化粧をする　　Ｄ 携帯電話・スマートフォンを持つ

※以下のグラフは、「小学校低学年」「小学校高学年」を合わせて「小学生」としている。
※～平成２０年度まで「Ｄ　携帯電話を持つ」

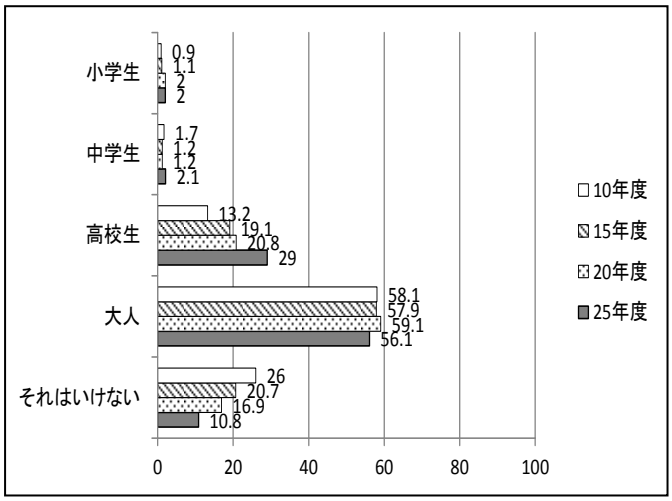
問９Ａ　髪を染める（小学生の保護者）



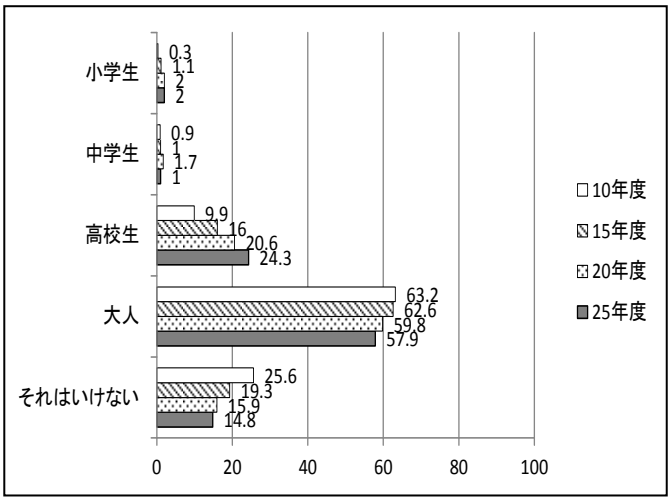
問９Ａ　髪を染める（中学生の保護者）



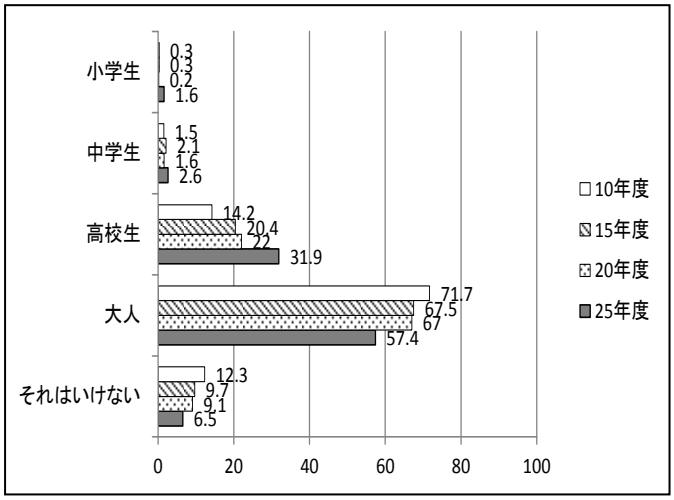
問９Ｂ　ピアスをする（小学生の保護者）



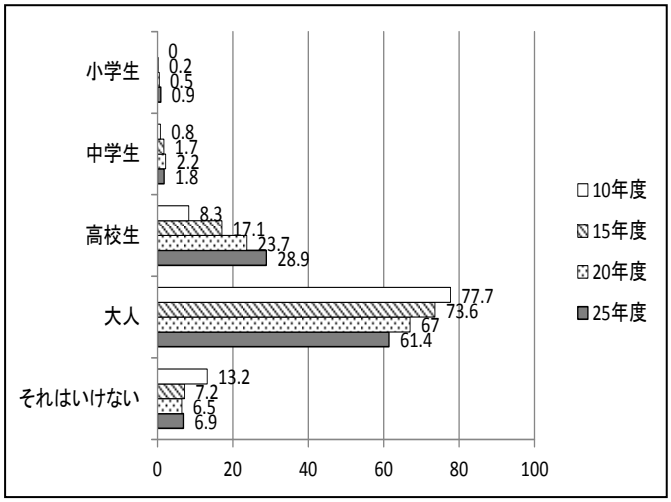
問９Ｂ　ピアスをする（中学生の保護者）



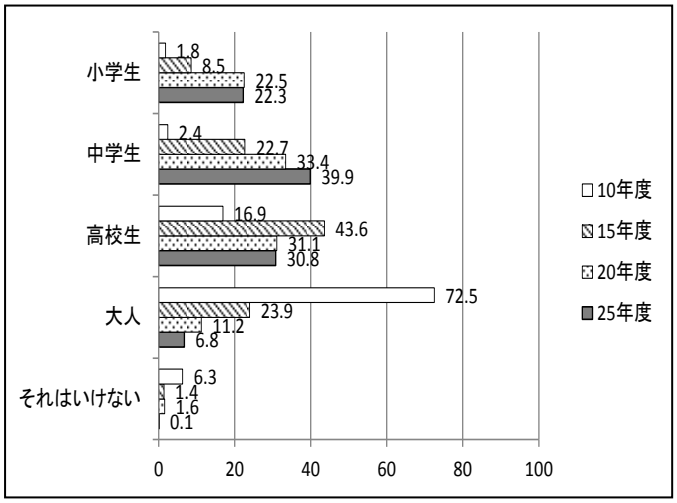
問９Ｃ　化粧をする（小学生の保護者）



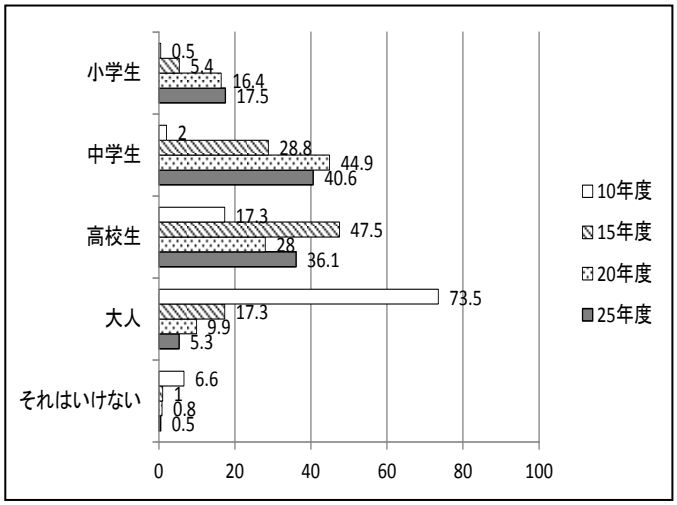
問９Ｃ　化粧をする（中学生の保護者）



問９D　携帯電話・スマートフォンを持つ（小学生の保護者）



問９D　携帯電話・スマートフォンを持つ（中学生の保護者）



＜平成２５年度の結果＞

小学生、中学生の保護者ともに、「髪を染めてもいい」「ピアスをしてもいい」「化粧をしてもいい」と思うのは、「大人になってから」と回答している割合が最も高い。次いで「高校生から」となっている。

携帯電話・スマートフォンについては、小学生、中学生の保護者ともに、「持ってもいい」と思うのは、「中学生から」と回答している割合が最も高い。次いで「高校生から」「小学生から」と続いている。「持ってはいけない」と考えている保護者は、ほぼいない。

「そうすべきではない」と回答している保護者の割合は、１割を切っており、子どもの３割強が「そうしてはいけない（そうしたいとは思わない）と回答していることと比べると、保護者は許容的にとらえていることが分かる。

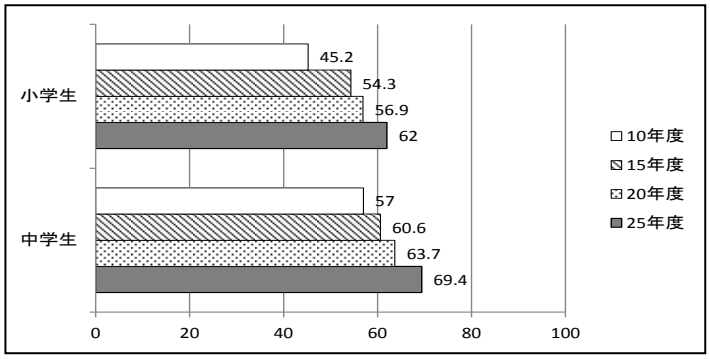
＜平成１０年度から２５年度を通しての比較＞

「髪を染める」「ピアスをする」「化粧をする」については、小学生、中学生の保護者とも、「大人になってから」という回答が上位であるが、年を経る毎に減少傾向である。それとは反対に年度ごとに増加傾向なのが「高校生から」であり、今後してもいいと思う時期がさらに早まる可能性があるように思う。

「携帯電話・スマートフォンを持つ」については、「小学生から」「中学生から」が増加傾向にある。(*) それとは反対に、「大人になってから」や「持つべきではない」という考え方が著しく減少している。保護者の意識に、昨今の世相が反映されていると言える。

問２０　あなたは、今、お子さんについて何か悩みがありますか。
１．ある　　２．ない

問 20　子どもについて悩みがある



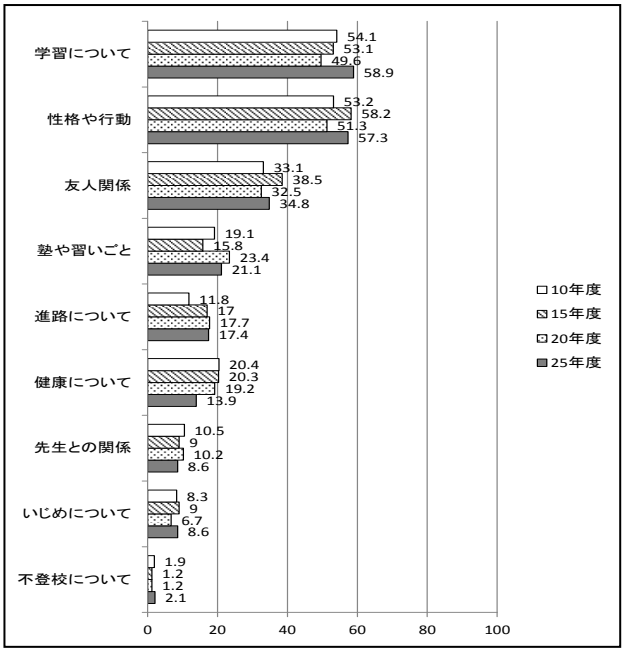
＜平成２５年度の結果＞
小学生、中学生の保護者ともに、子どもについて悩みが「ある」と回答している割合が、６割を超えており、中学生の保護者は、約７割である。中学生の保護者の方が、子どもについて何らかの悩みを抱いている結果である。

＜平成１０年度から２５年度を通しての比較＞
小学生、中学生の保護者ともに、子どもについて悩みが「ある」と回答している割合が年々増加している。(*)

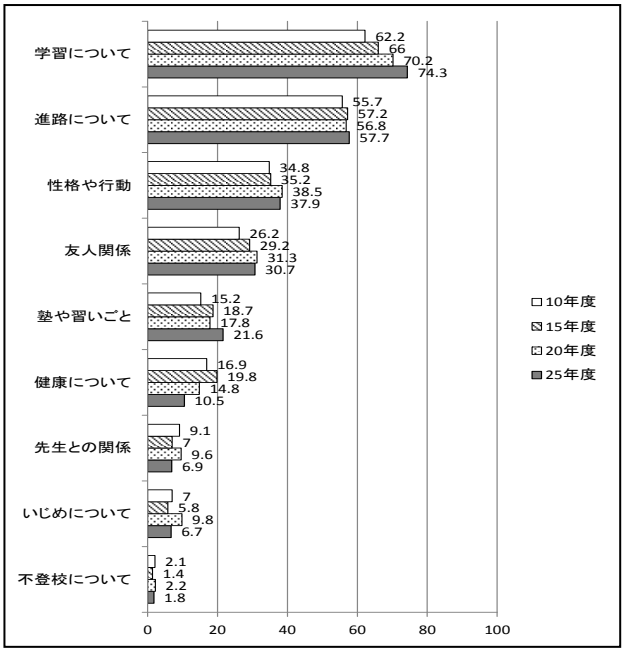
Ａ　どんな悩みがありますか。(いくつでも)

１．学習について	**４．性格や行動について**	**７．いじめについて**
２．進路について	**５．友人関係について**	**８．不登校について**
３．塾や習いごとについて	**６．健康について**	**９．先生との関係について**

問 20Ａ　どんな悩みか（小学生の保護者）



問 20Ａ　どんな悩みか（中学生の保護者）



＜平成２５年度の結果＞
悩みの内容については、小学生の保護者では、「学習について」「性格や行動について」が高く、ともに６割弱である。次いで「友人関係について」が３割強、その後「塾や習いごとについて」「進路について」が続き、約２割程度である。
いっぽう、中学生の保護者では、「学習について」が最も高く、７割強である。次いで「進路について」が６割弱、次いで「性格や行動について」「友人関係について」が続き、３割から４割である。
「進路について」は、中学生の保護者の方が高く、小学生の保護者で２割弱、中学

生の保護者で６割弱となっている。「塾や習いごとについて」は、小学生、中学生の保護者ともに、約２割程度である。

中学生の保護者は、進路や学習については悩んでいるが、塾や習いごととの関わりの中での悩みではないことがわかった。

「いじめについて」や「不登校について」は、どの保護者であっても敏感であると考えるが、小学生、中学生の保護者ともに、１割に満たない結果であった。

＜平成１０年度から２５年度を通しての比較＞

小学生の保護者では、「学習について」が前回の調査まで減少傾向にあったものが、大きく増加している。(*) また、「健康について」が、年を経る毎に減少している。(*) その他の項目については、変化がほぼなく横ばいであったり、割合が年々上下したりする項目が多い。(*)

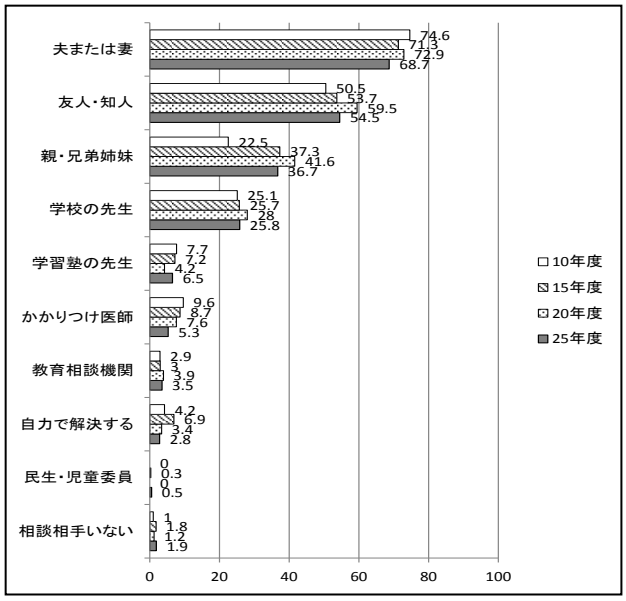
中学生の保護者では、「学習について」や「塾や習いごとについて」が調査ごとに増加傾向にある。(*) 逆に減少傾向なのが、「健康について」であり、小学生の保護者と同じ結果である。(*) 子どもの健康について、不安が減ったと考えられる。その他の項目については、ほぼ変化がなく、横ばいの結果の項目が多い。(*)

昨今、テレビでも話題になることが多い「いじめについて」や「不登校について」は、どの調査であっても悩みとして挙げる保護者の割合は少なく、ほぼ横ばいである。

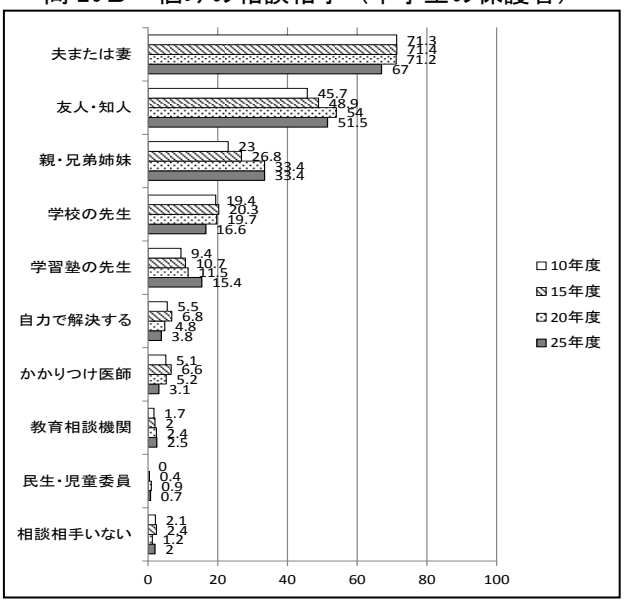
Ｂ　その悩みをだれに相談していますか。（いくつでも）

１．夫または妻
２．親・兄弟姉妹
３．友人・知人
４．かかりつけの医師
５．民生・児童委員
６．学校の先生
７．教育相談機関（電話相談を合む）
８．学習塾などの先生
９．相談相手がいない
１０．だれにも相談しない（自力で解決する）

問 20Ｂ　悩みの相談相手（小学生の保護者）



問 20Ｂ　悩みの相談相手（中学生の保護者）



＜平成２５年度の結果＞

悩みの相談相手については、小学生、中学生の保護者ともに「夫や妻」最も高く、約７割である。次いで、「友人・知人」「親・兄弟姉妹」が上位を占めている。

「学校の先生」については、小学生の保護者では、２割強、中学生の保護者では、２割に満たないほどである。

小学生の保護者と中学生の保護者を比較すると、小学生の保護者では「学校の先生」、中学生の保護者では「学習塾の先生」が、多くなっている。(*) 相談の内容が、小学生の保護者では、学習面以外のことも多いが、中学生になると、学習・進路の悩みが多くなることが影響していると思われる。

＜平成１０年度から２５年度を通しての比較＞

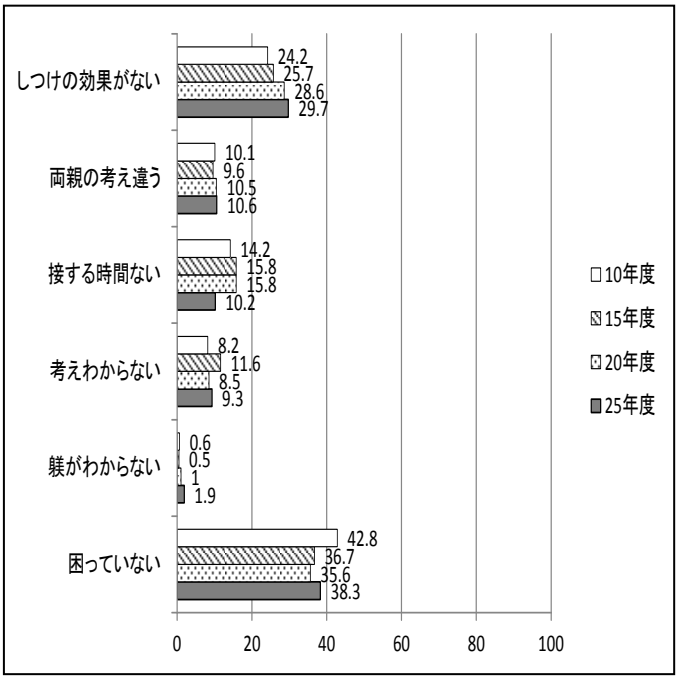
小学生の保護者における悩みの相談相手では、前回の調査まで増加傾向にあった「友人・知人」「親・兄弟姉妹」「学校の先生」が、今回の調査で減少している。相談相手として上位を占めている項目すべてで減少している。

中学生の保護者における悩みの相談相手では、前回まで増加傾向のあった「友人・知人」が、今回の調査で減少している。最も高い割合を示した「夫または妻」でも、今回の調査で初めて７割を下回った。しかし、「親・兄弟姉妹」や「学習塾の先生」は、年を経る毎に増加傾向にある。(*) 中学生の保護者は、小学生の保護者よりも学習塾との関わりが密であるように思う。「学校の先生」を相談相手として挙げている割合が減少し、「学習塾の先生」を相談相手として挙げる割合が増加していることから、進路についてだけでなく、学習の仕方などについても相談にのってもらう機会が増えてきているのだと考える。

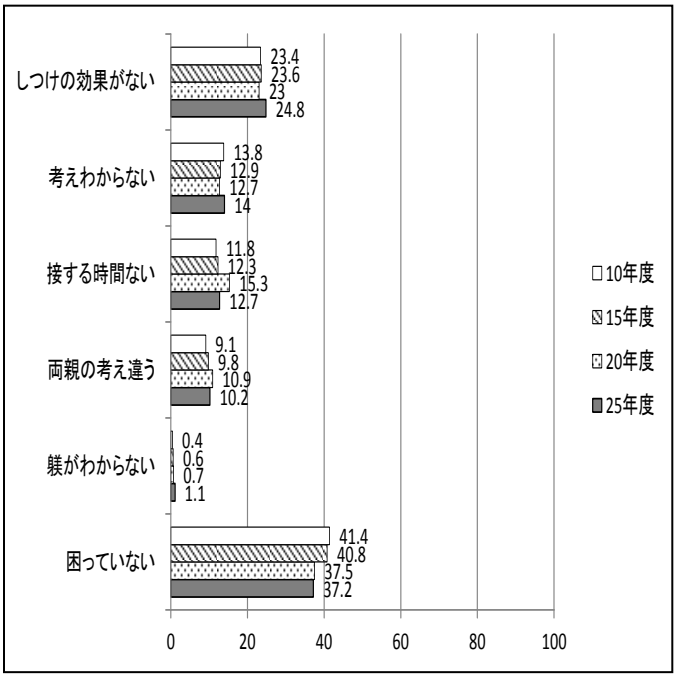
問２４　あなたは、お子さんのしつけで、特にどんなことで困っていますか。

１．子どもの考え方がわからない
２．父親と母親の考え方が違う
３．子どもに接する時間が少ない
４．しつけ方がまったくわからない
５．しつけても効果があがらない
６．困っていない

問 24　しつけで困ること（小学生の保護者）



問 24　しつけで困ること（中学生の保護者）



＜平成２５年度の結果＞

小学生，中学生の保護者ともに、「困っていない」が４割弱で最も高く、「しつけても効果があがらない」が３割弱と続く。両項目ともに５割に満たない。

中学生の保護者では、「子どもの考え方がわからない」という項目が３番目に高い割合を示しており、１割強である。やはり、小学生よりも中学生の方が、子ども自身の価値観や考え方が形成され始める時期に見られがちな、コミュニケーションの取りにくさが、結果にも表れていると考える。

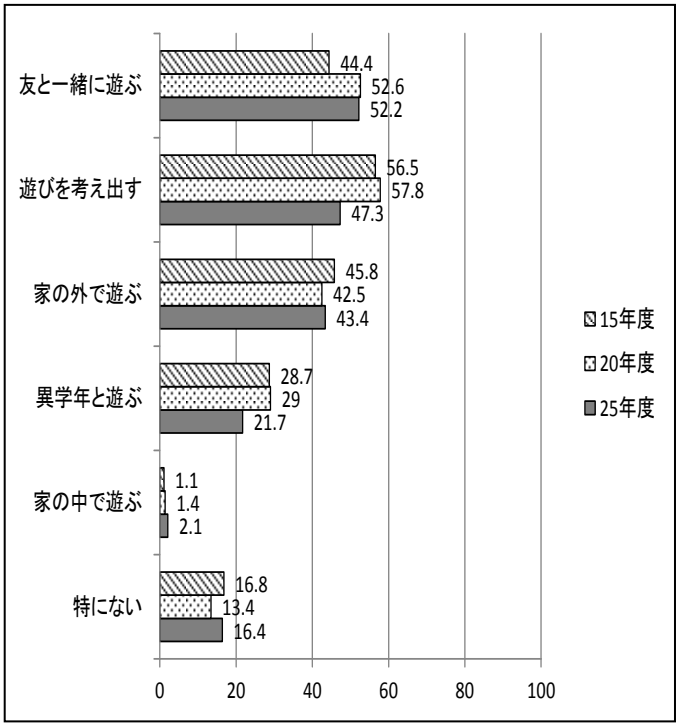
＜平成１０年度から２５年度を通しての比較＞

小学生の保護者では、「しつけの効果がない」が増加傾向である。(*)「困っていない」については、前回の調査まで減少傾向にあったが、今回の調査で再び増加している。

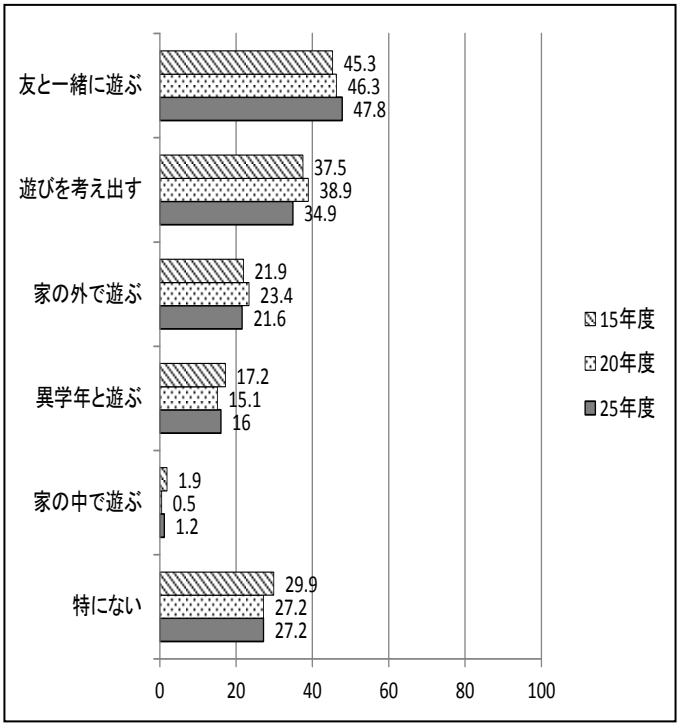
中学生の保護者では、どの項目も変化はほとんどなく、ほぼ横ばいである。(*) しかし、「困っていない」だけが、減少傾向にある。(*)

問２５　あなたは、お子さんの遊びに関して、もっと必要だと思うことがありますか。
１．友だちと一緒に遊ぶこと　　４．家の中で遊ぶこと
２．違う年齢の子どもと遊ぶこと　　５．自分たちで遊びや遊びのルールを考えだすこと
３．家の外で遊ぶこと　　６．必要だと思うことは特にない

問 25　遊びに必要なこと（小学生の保護者）



問 25　遊びに必要なこと（中学生の保護者）



＜平成２５年度の結果＞

小学生の保護者では、「友だちと一緒に遊ぶこと」が最も高く、５割強であった。次に、「自分たちで遊びやルールを考え出すこと」「家の外で遊ぶ」が続いている。中学生の保護者においても同様の順で、「友だちと一緒に遊ぶこと」は５割弱である。

「友だちと一緒に自分たちで考えた遊びをして欲しい」ことから、子どもの頃のような遊びをして欲しいと考える保護者が、一定程度いると思われる。近年、普及してきているゲーム機などによる遊びではなく、家の外での遊びをして欲しいという願いは、中学生の保護者よりも小学生の保護者に多いように思われる。

＜平成１０年度から２５年度を通しての比較＞

小学生の保護者では、「友だちと一緒に遊ぶ」は、前回の調査まで増加傾向にあった割合が、今回の調査では前回とほぼ変わらず、高い割合を示し続けている。「家の外で遊ぶ」は、過去の調査とほぼ変わらず、横ばいの結果である。しかし、「自分たちで遊びやルールを考え出すこと」は前回の調査まで若干の増加傾向であったが、今回の調査で大きく減少し、５割に満たない結果である。

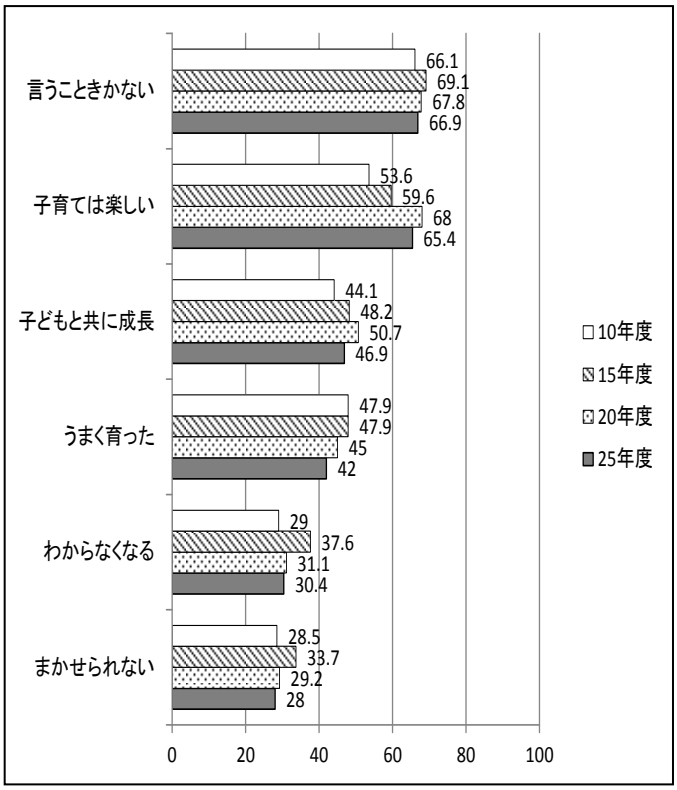
中学生の保護者では、目立った変化は見られない。

問２８　あなたは、お子さんのことに関連して、次のように感じることがありますか。
（よくある、ときどきある、どちらともいえない、あまりない、まったくないから選択）

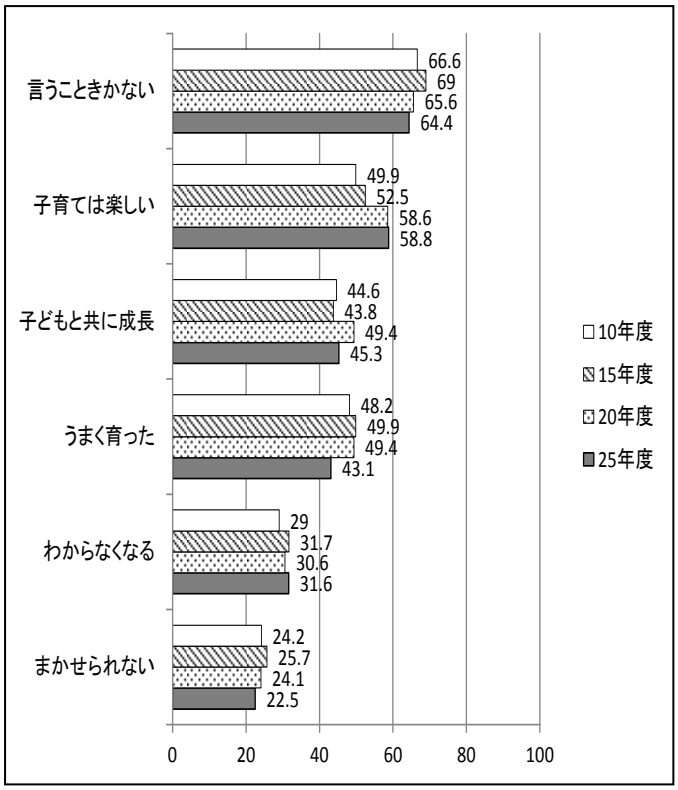
Ａ 最近子どもが自分の言うことをきかなくなってきた
Ｂ 子どもの成長とともに自分も成長している
Ｃ 自分の子どもは、けっこううまく育っている
Ｄ 子どもの身のまわりのことを、子ども自身にまかせられない
Ｅ 子どものことで、どうしたらよいかわからなくなる
Ｆ 子育ては楽しいと感じる

※グラフは、「よくある」「ときどきある」を合わせたものである。

問 28　次を感じることがあるか（小学生の保護者）
〈よくある＋ときどきある〉



問 28　次を感じることがあるか（中学生の保護者）
〈よくある＋ときどきある〉



＜平成２５年度の結果＞

小学生、中学生の保護者ともに「よくある・ときどきある」の割合が最も高いのは、「最近子どもが自分の言うことをきかなくなってきた」で、６割を超える。しかしながら、「子育ては楽しい」と感じている割合は、小学生の保護者で６割強、中学生の保護者で６割弱であり、高い割合を示している。これらのことから、「言うことをきかない」と悩みながらも子育てに何らかの価値を見出していることがうかがえる。

＜平成１０年度から２５年度を通しての比較＞

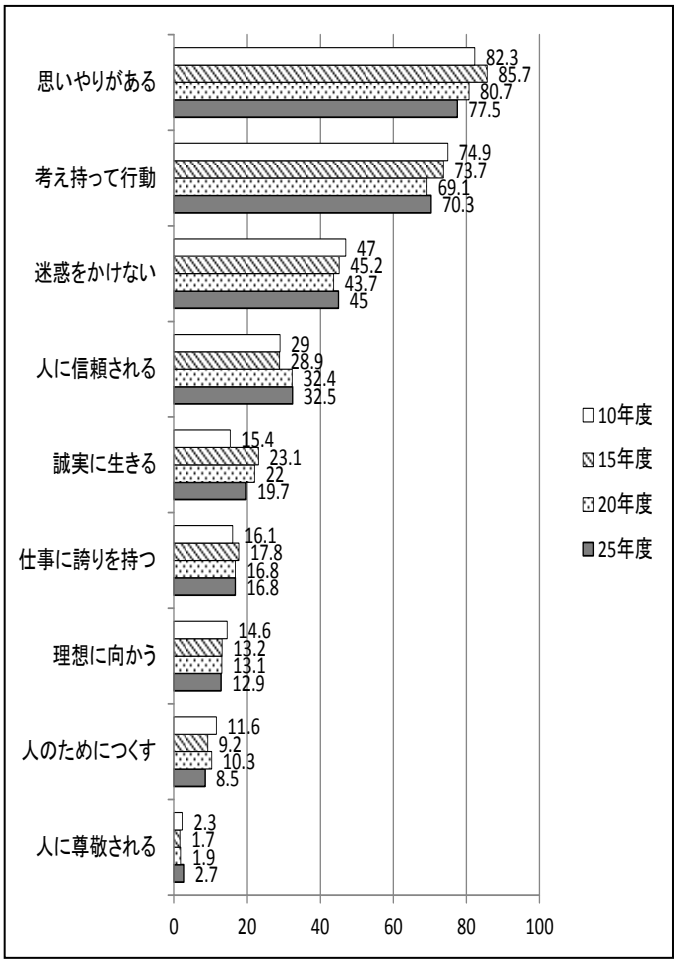
小学生、中学生の保護者ともに、「子育ては楽しい」「子どもの成長とともに自分も成長している」が増加しているとともに、「どうしたらよいかわからない」が増え、「うまく育った」が減少している。子育ての喜びや充実感が増加するとともに、戸惑いや失敗感も増加傾向にある。(*) 子育ての奥深さ、多面性が感じられる。

高い割合を示す「最近子どもが言うことをきかなくなってきた」は、第２次調査をピークに減少しているが、大きな変化はなく、ほぼ横ばいであると言える。これは、小学生高学年から中学生という難しい年代をしつける上で、保護者がどうしても感じることであることがわかる。

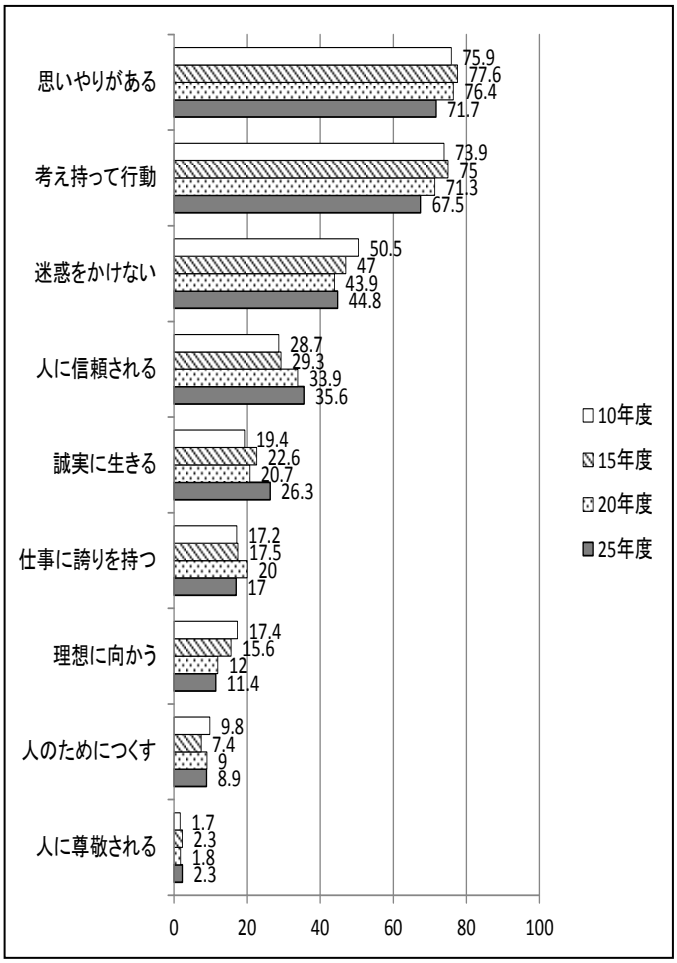
問２９　あなたは、お子さんに将来どんな人になってほしいと思っていますか。（３つまで）

１．思いやりややさしさのある人
２．人に尊敬される人
３．人に信頼される人
４．人のためにつくせる人
５．自分の理想に向かって生きる人
６．誠実に生きる人
７．自分の考えをしっかり持って行動する人
８．人に迷惑をかけない人
９．自分の仕事に誇りを持っている人

問 29　どんな人になってほしいか（小学生の保護者）



問 29　どんな人になってほしいか（中学生の保護者）



＜平成２５年度の結果＞

小学生、中学生の保護者ともに、「思いやりややさしさのある人」が最も高い割合を示している。次いで、「自分の考えをしっかり持って行動する人」が高く、小学生の保護者で約７割、中学生の保護者で７割弱である。心の豊かさや自立性は、市内小・中学校の学校目標でも掲げられていることが多く、保護者の価値観との共通性が感じられる。

＜平成１０年度から２５年度を通しての比較＞

小学生、中学生の保護者ともに、増加傾向にあるのが、「人に信頼される人」である。(*)

小学生の保護者では、「思いやりややさしさのある人」と「誠実に生きる人」とで第２次調査をピークに減少傾向にある。(*)

中学生の保護者では、「思いやりややさしさのある人」「自分の考えを持って行動する人」とで第２次調査をピークに減少傾向にある。(*) また、「自分の理想に向かって生きる人」は、年を経る毎に減少している。(*)

小学生、中学生の保護者ともに、「人に尊敬される人」は、ほぼ変わらず横ばいであり、毎回最も低い割合を示す。保護者自身が尊敬する人物を持っていないことの反映かもしれない。